

診療の順番を待つ母子の列。自分の番が回ってくるのはいつ?—ジャバ郡で



南アジアの医療拠点を目指して

子ども病院をぜひつくりたい。患者は市外からも来るが、運営はアトワル市が責任を持ってやります。



アトワル市スルヤ・プラサド・プラダン市長

運営には万全を期す
アトワル市のスルヤ・プラサド・プラダン市長(56)

いる人からは治療費を取り、貧しい人からは取らないという方法でも財政的にやっています。経済団体が支援することも決まっていますし、市からも資金援助をし、NGOなども協力をしてくれる予定です。この病院ができれば、日本とネパールの友好の象徴になります。応援をお願いします。

命を小さくあえぐ

ネパールからの悲痛な叫び

子ども病院建設に希望託し



このような不衛生な光景はいたる所にあり、子どもを健康をむしばんでいく=カカラで



病院不足の患者の姿が重なり、一つのベッドに2人の赤ちゃんが同居しているニャマツカ市のAMDА病院で

明日を生きたい

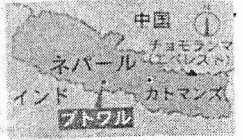
唯一の小児病院へ数日ばかりで

「助けて」—。アジアで最も貧しいネパールで、幼い子どもたちが次々と命を落としていく。首都・カトマンズにある国内で唯一の小児専門病院は、全土から患者が集中して悲鳴をあげ、各地の一般病院も子どもを抱えた母親で連日埋まっている。貧しいため、病院に來れなくて亡くなる子どもたちも多い。5歳未満児の死亡率は1000人中128人(1993年)。日本(8人)の20倍以上だ。この子どもたちを救おうと、現地「AMDА(アジア医師連絡協議会)ネパール」などが子ども病院の建設委員会をつくった。山々に囲まれたネパールで、中東部のカトマンズに遠くまで手廻れになる子どもたちが多い南西部をカバーしようと、アトワル市で計画を進めている。病院関係者や市民も口々に早期実現を訴えており、委員会は「日本からもぜひ援助を」と訴えている。

文・連見 新也 写真・藤尾 公治

「体が、二男のリテ・マン、ドルちゃんへの愛を、父のシンティーン、母のシヤクナル、南西部の市、シヤクナル市に住んでいる。シヤクナル市は航空港があるが、空路はあつた。山間の天候はあつた。山間の天候はあつた。山間の天候はあつた。山間の天候はあつた。」

「半分が、カトマンズ周辺の貧乏村から目くじまかきかき...」



ネパール(インド・カトマンズ)

友好のシンボルに

ベッド足りず同床
20床のベッドが、子ども3人、隣り合っている。...「住民の子ども、この地域布衣に似せられたり、一つのベッドから起きると、3人の手が伸びるが、...」

「恩返し」の国民参加型国際貢献を
AMDА(本部)と地元がスクラム
AMDАネパールの代表で、神戸大学薬部に留学中のラメッシュワル、ボウケルさん(38)は「この病院は、子どもを救う拠点になる。今も医師より折衝師を置いて病院にない人たちが農村部に多い。こうした人への啓発活動を進めなければならない。ネパール南部の恵福にあるので、将来的には南アジアの緊急援助の基地にもなる。ぜひ日本からの温かい援助をお願いします」と、盛っぽく話した。

子ども病院建設にご協力を

子どもたちへ目に見える援助を実施するため、今年のキャンペーンは従来の国連機関への寄金に加え、ネパールで進められている子ども病院建設計画にも協力します。... 協力は、右記へ郵便振替か現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

計画の概要

アトワル市に計画中のこの新しい子ども病院は、同市中心部から東に2km、の牧草畑一写真、四十の南部、インド国境に近い東西に走る高速道路から800mの距離で、交通の便はいい。約7畧の用地があり、将来的にベッドや樹木の増設などもできる。乳幼児とその母親を守るため、小児科と産婦人科を併設。貧しくて病院に來ない母子を減らすため、薬局は院内に置き、貧しい子どもたちは薬を無料で渡すのが特徴だ。計画中では、まずベッド100床の病棟と外来からなる建物1棟からスタート。軌道に乗れば2~3年後に研修センターをつくり、ここで2名医師を研修させ、山間の村まで派遣。区画と保健衛生への啓発活動や診療も行う。

医師研修センターも

AMDАと地元がスクラム
委員会事務局を務めるAMDАネパールは、登録医師25人。阪神大震災の際、医師3人が日本で被災民の治療に当たった。事務局は、AMDАのほか、アトワル市、地元経済団体が構成。予定地の国有地を譲渡する手続きは病院建設のため

5歳未満児の死亡率は日本の20倍